

平成 23 年度全国中学校体育大会は 8 月 17 日、近畿で開幕。
全国 47 都道府県の選手たちは 8 月 25 日まで、各府県の会場で頂点を目指して熱戦を繰り広げました。
本町からは 3 人が出場。大舞台で堂々とした戦いを見せてくれました。



北伊予中 3 年・佐伯彩華

北伊予中 3 年・池内百花



松前中 2 年・林祐哉
Hayashi Yuya

ソフトテニス女子個人戦

奈良県で開かれたソフトテニス女子個人戦には、8 月の四国総体で 3 位入賞を果たした北伊予中 3 年の佐伯彩華さんと池内百花さんペアが出場しました。

二人は初戦で福岡県の百道中学校と対戦。試合は接戦となりましたが、惜しくも 2-4 で敗れました。彩華さんは「自分たちのテニスができなかった」と、百花さんは「1 回戦で敗退してしまい、本当に残念」と悔しさをにじませました。

後衛の彩華さんの持ち味は安定感抜群のストローク。前衛の百花さんは思い切りのよさが売り。二人とも小学生時代から全国を経験してきました。技術はもちろん、気持ちで負けないようにと、人一倍声を出し、厳しい練習を重ねてきました。高校生になってもテニスを続けると話す二人は「全国大会の経験を生かし、高校でインターハイに行きたい」と笑顔。コートで培った強い心と固い絆で、未来に向かって新たな一歩を踏み出しています。

柔道男子個人戦 90 キロ超級

和歌山県で開かれた柔道男子個人戦 90 キロ超級には、8 月の四国総体を制した松前中 2 年の林祐哉さんが出場しました。

2 回戦は宮城県の志波姫中と対戦。自分の得意の形に持ち込もうとするも、縦四方固を決められ、悔しい一本負けをしました。「一本負けが悔しかった。この悔しさをバネに来年に向けて頑張りたい」と祐哉さん。

まだ 2 年生。次があります。「まずは 10 月にある新人戦に向けて練習を頑張りたいです。来年の総体でも全国大会へ出場できるように、これから 1 年間は体づくりを強化したい」と確固たる決意で前を見ます。得意技は払い腰。「やる時はやる」と、メリハリのついた気持ちや態度で練習に励んでいます。リーダーシップがとれ、友達からの信頼も厚いという祐哉さん。これからどんな活躍を見せてくれるのか、期待は高まるばかりです。